

太閤山あおい園 施設評価（令和3年度）

決算報告

資金収支についての詳細は別紙(決算書参照)

平成27年度に新制度に移行後、資金収支は改善に向かっており、順調な決算である。新規職員採用が困難な中、人材紹介会社を利用せざるを得ない状況があり、採用費や人件費の割合が増大している。

保護者アンケート

保護者アンケートでは、8割以上の保護者の方に、A、Bの評価を頂いた。個別の改善点(「保護者アンケート結果」参照)については、今後具体的に解消に努めたい。

令和2年度も、新型コロナウイルス感染症対策を行いながらの活動となった。中止せざるを得なくなった行事もあり、心苦しい限りだった。保護者の方からは「仕方ないけど、もっと以前のように行事や子どもの様子を見る機会が増えて欲しい」「園内での参観、行事の中止、立ち入りの制限により園での子どもの様子が分からない」というご意見を沢山いただいた。ゆめねっと、インスタグラム、YouTubeなどを通じて、園での様子をできる限りお伝えできるよう努めてきたが、まだまだお伝えし切れていない所があると痛感している。コロナ渦であろうと、そうでなかろうと、子ども達ののびのびとした成長をお伝え出来る環境作りを続けていきたい。

また、保護者の方とのコミュニケーションが希薄になってしまったことは、園としての大きな課題となっている。登園、降園時など、職員からできる限り声かけし、小さな会話を積み重ねるなど、コミュニケーションの土台を改めて作って行くとともに、感染症対策は行いながら、参観、懇談など保護者の方と直接お話できる機会や子ども達の成長を見ていただく機会を広げていきたい。

職員自己評価

キャリアパスの導入に合わせ、平成29年度より自己評価・園長評価の項目を一新した。評価の基準も、「A:他の保育者に指導できる、B:自らの力で出来る、C:指導されれば出来る、D:まだ出来ない」という、自分個人の能力だけではなく、園の中での自分の果たすべき役割を意識した基準となっている。

(調査項目については「職員自己評価」を参照)

職員評価総評

昨年度に比べほとんどの大項目の達成率が上がっている。

新型コロナウイルス感染症の影響で行事や保育内容に変更が多くあったが感染症対策2年目ということもあり、臨機応変に対応できたようだ。

また、担当分け、正規、パートを問わずのチームで話し合う機会を多く持つことで、職員間のコミュニケーションは深まった1年だった。正規職員、パート職員の垣根を越えて、職員全体として、それぞれが自分なりの目標を持ち、自分にできることは何かを考えながら保育を行えるようになってきたよ

うに感じられる。

しかし、保護者の方とのコミュニケーションについては、もっとこちらから声掛けができたのではないか、何気ない会話をもっとするべきだった、などの反省の言葉が多く見られた。日々子ども達の様子の配信なども、園としては出来る限り様子を伝える努力をしていますが、保護者の方には伝わりきっていないのだということが、保護者アンケートからも見られる。

令和3年度以降に向けて

- ◎ 保護者の方とのコミュニケーションを自ら積極的に行う
- ◎ 保護者の方と直接話をする機会（面談等）を増やす（コロナ以前まで戻す）
- ◎ 若い人材の育成・新規採用者の確保
- ◎ リーダーとなる人材の育成
- ◎ 園内研修の充実
- ◎ 職員による遊具・玩具点検の強化、ヒヤリハット事例の共通理解
- ◎ 気になる子、障がい児、アレルギー児への対応の研修、専門機関との連携の強化